

ぴか! 創

令和4年度 図工・美術部報
発行：9月13日（火）

主体的・対話的で深い学びをする先生に

岡崎市現職研修委員会図工・美術部
部長 長坂 博子

どの授業においても「先生が本気になれば、子供は必ず本気になる」と、実践の途中で途方に暮れ、自分が悩んでいた若い頃、先輩の先生に教えていただきました。このことは、「主体的」でも当てはまると思います。「先生が主体的になれば、子供も必ず主体的になる」のではないのでしょうか。

この夏休み、多くの先生方が授業力・教師力アップセミナーで、ご自身の授業力と教師力を磨かれたことと思います。図工・美術部における基礎編・応用編においても力量向上に努める先生方の姿がありました。実技の場面では、いつもは教える立場である先生方が子供の立場になり、童心に帰ったような表情で造形活動に取り組まれていました。自分が表現したい色や形にするためには、どのように手を動かせばいいのか、創意工夫しながら作品づくりをされていました。鑑賞活動や造形遊びでは、心に感じたことを大切に、自分の思いを言葉や体で表現していました。

受講されていた先生方は、どの方も主体的でした。そのため、さまざまな思いや疑問が次々と出てくるので対話的でもありました。思うようにいかないところでは試行錯誤をされていました。試行錯誤した後の「できた」は図工・美術科での「学ぶ楽しさ」です。研修会では、そのことを感じてくださったのか、帰られるときの皆さんは笑顔でした。

この2学期、主体的になられた先生方のもとで子供たちが主体的・対話的になり、楽しく造形活動に励んでくれることを期待しています。



▲モダンテクニックを生かして ▲新聞紙を使った造形遊び

図工・美術部 夏季研修会を終えて…

授業力・教師力アップセミナー 応用編（小学校図工）

羽根小学校 杉浦 貴恵

本研修会において、さまざまな材料に触れて行う造形活動を通して、図画工作科の教材研究を深め、資質・向上を高めることができた実感しました。例えば、身近な材料である新聞紙を使った造形遊びでは、活動後、その新聞紙を使い、水と洗濯のりを混ぜて新聞紙粘土をつくり、粘土作品を作るという SDGs 教育も生かしながら、制作に取り組むことができました。この楽しさが忘れられず、自宅に持ち帰って乾いたのちに、作品を彩色して完成をさせました。

午後の講習のモダンテクニックでは、教科書以外の技法も紹介してくださり、多様な表現方法を学ぶことができました。また、愛知県の小・中学校に配布されている「アートカード」を使った鑑賞の授業の仕方を知り、授業で実践したいと思いました。

児童の「主体的で対話的な深い学び」のために、この学びを今後生かしていきたいと思っております。



▲新聞紙粘土作品

授業力・教師力アップセミナー 応用編（中学校美術）

矢作北中学校 成田 絢香

8月2日（火）に行われた応用編では、指導と評価の一体化や「学びに向かう力」の評価についての講義が中心となった内容でした。学習課題、課題追究、学習後の姿、評価を繰り返す、課題設定を改善していくという流れを繰り返していくことで、授業をより良くしていくことができます。この流れの中で、実際に作品の試作を行い、生徒の困り感を見通していく必要があります。

このように、「どうやって授業を組み立てるか」「評価をする際の留意点」について、受講者同士で意見を交流し、さまざまな考えにふれられたので、評価するうえでの課題などを知ることができました。

また、タブレットPCを活用した授業実践では、デカルコマニーやドリップリングなどを撮影し、レイヤーや画像加工、切り抜きなどの機能を活用し、デジタルとアナログを合わせた制作に取り組むことができました。



▲デジタルコラージュ

授業力・教師力アップセミナー 基礎編（図工・美術）

岩津小学校 三浦 祐揮

7月27日（水）に行われた基礎編では、日本六古窯の一つの常滑焼で有名な常滑市にある「ラクガキ教室 BANKSY」の代表を務める藤本径也さんを講師にお招きしました。

今回の研修会では、焼き物の製造工程で一定数出てしまう廃材（陶器の破片）をSDGsの観点から作品の材料として見方を変え、どこにでもあるような素焼きの植木鉢に貼り付け、オリジナルのモザイク陶器の植木鉢を制作しました。図工・美術科の授業にSDGsの考えを取り入れる発想や、実際に制作を体験することで、児童・生徒の視点での気づきを学ぶことができました。



▲講師の藤本径也さん



▲お気に入りの陶片を選ぶ参加者の様子



▲陶片の間に目地材を塗る参加者の様子

● 授業力・教師力アップセミナー参加後の声…

- ・いつもなら廃材となってしまう陶片も、作品づくりに必要な材料の一つとして見方を変えると、とても素敵なものになると実感しました。絵の具では表現できない色や質感も扱える一つの道具としての陶片の魅力を感じました。（小学校教諭）
- ・初めてタイル付けをしたので楽しかったです。また、「どうしたらいいのかな？」などと考えながらできたので、子供たちの気持ちを体感できました。（小学校教諭）
- ・SDGsから常滑焼の話まで、いろいろな知識が増え勉強になりました。鉄分の多い粘土質の土を焼くと常滑色になることも初めて知ったことでした。子供たちにも伝えたいと思います。また、身近な植木鉢を教材にも使いたいと思いました。（小学校教諭）
- ・準備は大変ではあるものの、制作の過程が手軽にできてすごく楽しい。授業で似たようなものを扱うなら、テーマを設定しても想像力が膨らみそうだ。（中学校教諭）
- ・絵を描くことが苦手な子でも、楽しく取り組めると思いました。SDGsに関して、美術科の授業に生かせる題材で興味深かったです。（中学校教諭）

第59回「造形おかざきっ子展」において

2年間のWeb開催を経て、3年ぶりの野外展ということもあり、変更していることもあります。実際に作品を運び、展示するという一方で、展示方法だけではなく、会場までの運搬方法も工夫をしていただきたいと思います。児童・生徒数や作品の規模が異なるため、各学校の事情に合わせて、搬出入の計画を進め、無事に開催できるようご協力をお願いします。

